

自由民権資料館 第3回市民協働企画展
「歴史を学び、考える～仲間とともに深め合う～」
の開催について

1 開催趣旨

2009年に立ち上げた歴史講座「町田自由民権カレッジ」は、今年で13年目を迎えました。この講座は、単に歴史を教わり、知るだけでなく、考える楽しさを体験しながら、学びを深めることを目的としてきました。そのため、学芸員による講義に加え、受講生自身が史料講読や研究発表などを行い、主体的に調査することで、学ぶ力を身につけることを目指したカリキュラム構成としています。

今回の展示では、「町田自由民権カレッジ」の講座内容の紹介、3年間の学びのまとめとして執筆した卒業論文の内容及びカレッジ卒業生の活動紹介を、展示という手法で紹介します。本来、2020年度に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1年延期し開催するものです。ご覧になる方がたに、本展が新たな学びをスタートするきっかけとなることを期待しています。

2 開催期間：2021年4月24日（土）～5月30日（日）

3 休館日：月曜日（ただし、5月3日（月）は開館し、5月6日（木）は休館）

4 会場：町田市立自由民権資料館企画展示室

5 広報：『広報まちだ』、『生涯学習 NAVI』春号、ホームページ、Twitter、
ポスター・チラシ

【展示構成】

(1) 「町田自由民権カレッジ」の紹介

(2) 「まちだ自由民権カレッジ同窓会」の紹介

① 凌霜(りょうそう)の風編集部「《凌霜の風》と共に」

② 蚯蚓(みみず)の会「青年たちも、村のくらしを、支えてきた青年団の記録、
大正時代から終戦まで」

③ 天野政立(まさたつ)研究会「「天野政立」を読み解く～“語る”から“実行”へ～」

④ 「町田のナイチンゲール 堀江トヨ」

(3) 町田自由民権カレッジ3期生の卒業論文の紹介

① 「窮理絵師 司馬江漢」

② 「清瀬下宿村と高橋友右衛門」

③ 「赤松小三郎―幕末に議会政治を建言―」

④ 「明治初期の生命刑」

⑤ 「五カ条の御誓文と民撰議院設立建白書」

⑥ 「小説から読み解く細野喜代四郎」

⑦ 「「安西リキ物語」～明治の「女学」の時代を生きて～」

⑧ 「義の人」―若き日の石坂公歴(まさつぐ)―

まちだ自由民権カレッジ同窓会共催
第3回 市民協働企画展

歴史を学び、考える

～仲間とともに深め合う～



自由民権資料館 30周年記念シンポジウム
におけるまちだ民権カレッジ同窓会員の報告



まちだ民権カレッジ同窓会の定例会

2021年4月24日(土)～5月30日(日)

町田市立自由民権資料館

〒195-0063 町田市野津田町 897 番地

TEL 042-734-4508

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日（ただし、5月3日（月）は開館し、5月6日（木）は休館）

交通：鶴川駅－5番バス乗り場より野津田車庫行・本町田經由町田駅行きで「綾部入口」下車

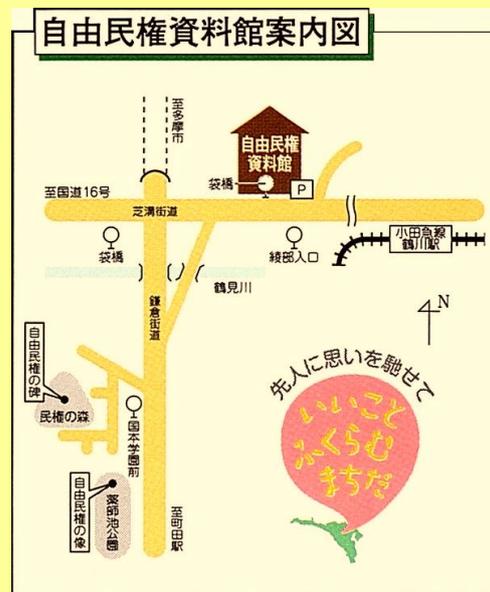
町田駅－小田急北口POP（ポップ）ビル先の21番バス乗り場から本町田經由野津田車庫行、または本町田經由鶴川駅行きで「袋橋」下車



町田市立自由民権資料館
(町田市公式) Twitter
@machida_minken



QRコードから
簡易検索



第3回市民協働企画展 「歴史を学び、考える～仲間とともに深め合う～」

【開催にあたって】

2009年に立ち上げた歴史講座「町田自由民権カレッジ」は、今年で13年目を迎えました。この講座は、単に歴史を教わり、知るだけでなく、考える楽しさを体験しながら、学びを深めることを目的としてきました。そのため、学芸員による講義に加え、受講生自身が史料講読や研究発表などを行い、主体的に調査することで、学ぶ力を身につけることを目指したカリキュラム構成としています。

カレッジでは、毎年多くの受講生が古文調・漢文調で書かれた史料に戸惑いの表情を浮かべます。しかし、予習・復習を重ね、受講生同士で学び合う姿が目立つようになると、次第に苦手意識が薄れ、学びも積極的になっていきます。また、自身の興味や経験から、自由な発想による意見が飛び交うのも、カレッジの日常の風景です。ときに議論が白熱することもあります。これらは受講生同士の親密さを強め、幅広い視野はテーマをより深く理解することを促します。それが、グループ学習の大きな魅力と言えるでしょう。

カレッジ卒業生が組織する「まちだ自由民権カレッジ同窓会」でも、さまざまな学びが継続されています。個人の研究発表や、同窓会の分科会による古文書解読・関連地域の現地調査・論文批評会など、活発な活動が繰り広げられています。これらの情報は、毎月発行の会報『^{りょうそう}凌霜の風』に掲載され、会員間で学びが共有されています。多岐にわたる関心、独自の調査方法など、その報告には驚かされることしきりですが、こうした学びを楽しむ素地は、カレッジで育まれたものだと思います。

本展では、「町田自由民権カレッジ」の講座内容を紹介するとともに、3年間の学びの総まとめとして執筆した卒業論文の内容を、展示という手法で紹介します。あわせて、「まちだ自由民権カレッジ同窓会」とその分科会活動にもスポットを当てて、展示を構成しました。ご覧になる方がたにとり、本展が新たな学びをスタートするきっかけとなることを期待しています。



町田自由民権カレッジの卒業記念写真

◆ 展示構成 ◆

- 1) 「町田自由民権カレッジ」の紹介
- 2) 「まちだ自由民権カレッジ同窓会」の紹介
 - ① ^{りょうそう}凌霜の風編集部「『凌霜の風』と共に」
 - ② ^{みみず}蚯蚓の会「青年たちも、村のくらしを、支えてきた！」
 - ③ ^{まさたつ}天野政立研究会「『天野政立』を読み解く
～“語る”から“実行”～」
- 3) 個人展示 (②～④)は3期生の卒業論文の成果
 - ① 荒井 仁「町田のナイチンゲール 堀江トヨ」
 - ② 阿波根 治「窮理絵師 司馬江漢」
 - ③ 高橋 幸治「清瀬下宿村と高橋友右衛門」
 - ④ 岡田 涉「赤松小三郎―幕末に議会政治を建言―」
 - ⑤ 鈴木 克恵「明治初期の生命刑」
 - ⑥ 成澤 正彦「五ヶ条の御誓文と民撰議院設立建白書」
 - ⑦ 荻原 紹夫「小説から読み解く細野喜代四郎」
 - ⑧ 渡邊 茂樹「『安西リキ物語』
～明治の「女学」の時代を生きて～」
 - ⑨ 萩原兵之助「『義の人』―若き日の石坂公歴―」

凌霜の風 2017 (平成29)年10月7日発行

【第1期】同窓会の誕生～9月1日以降
資料館より

【2期】自由の広場 (発行時特別版)

【3期】『凌霜の風』創刊の経緯 (相模
半島、浜村代表社員)

【4期】分科会紹介 (新刊の会)

凌霜の風

まちだ自由民権カレッジ同窓会会報 通巻第1号 (創刊号)

同窓会の誕生～9月1日以降
この夏は、箱根れの小地城集中華雨や冷夏心配されるような短い日照時間など異常な気象現象が目立ち、9月に入ってからも中東、欧州、アメリカ、そして北東アジアなど世界各地の政情不安は始まる気配が見えない。しかし、まちだ自由民権カレッジ同窓会 (以下、「同窓会」という) は恒例の8月～夏休み明けの2週間にその活動を再開させた。事務局が9月5日、天野政立分科会 (仮称) が翌6日に会合を持ち、9日には定例会が開かれて、本年度後半期の諸活動等について全員での協議が行われた。

◎ 第3期 定例会～9月9日 (土) ◎ 分科会
■ 連絡・協議事項 ◆ 新刊の会
(1) 9月の活動実施は5日と26日の2回。5日は、主に史料No.58(昭和13年度からの記録簿)を読み進める。また、夏休みの読物『石坂公歴の48年史』の(上)先行による書天合わせを行う。公歴のものには、編みかたの取り、挿絵のようなものがあり、交際辞のみの読物であり、読者の、で彼の心の幅と意匠の深さを改めて感じた。また、字体がそれぞれ文によって異なり、解読に苦労した箇所が多かった。26日は、史料No.58の読書。
(2) 10月17日と24日を予定。内容は史料58(全64頁)を終了し、いよいよ最後の史料60(昭和16年4月6日～昭和三十二年11月5日)と史料63(昭和19年11月5日～昭和28年8月6日の記録簿)全20頁にわたりかを予定。2月のペースで年内に上記史料をすべて解読できるかどうかは不明。
(3) 10月18日、同時に発行して「村の古史」への聞き取り調査の準備を行う予定。
◆ 天野政立分科会 (仮称)
(1) 9月6日の第3期会合は8名

町田自由民権カレッジ資料館より

▼ 2017年第2期特別展「民権家の創作と精神世界」
民権家の顔、だれも、顔、書、小説などから民権家の精神世界を探る。10月7日～11月26日。
▼ 資料館まつり
11月3日、歴史館等恒例のお楽しみはか「館内中々館の餅地蔵に贈る史料」の大公開がある。
※ 特別展「カレッジと同窓会」
『凌霜の風』「同窓会」(文化政策)のゲスト講師として、同窓会学芸員は、自由民権カレッジの同窓会として「カレッジ」同窓会)を取り上げる。12月5日実施。

凌霜の風は、まちだ自由民権カレッジ同窓会の会報です。

『凌霜の風』創刊号